

NCNL

No. 30

図書館だより

2011年12月

CONTENTS

臨床の疑問からの出発	1	利用統計	6-7
Message from Students	2	阿賀町公民館図書室三川分館への寄贈について	7
書評「おい でてこーい」	3	寄贈図書案内、お知らせ など	8
リポジトリ正式公開1周年記念インタビュー	4-5		

臨床の疑問からの出発 ～排尿障害に関する研究を通して～

看護学部長（老年看護学教授） 小泉 美佐子



私は、これまで、高齢者の排尿障害に関する研究を続けてきた。その出発は大学院を修了して1年半ばかり神経内科病棟に勤務した経験がきっかけであったかも知れない。それまで消化器・胸部外科の看護経験が主だったが、内科系、しかも難病患者が入院する病棟での看護は、私にとってカル

チャーショックだった。排泄ケアでは、夜勤でオムツ交換に1時間以上要し、尿道留置カテーテル（尿カテ）管理になっている患者も常に数名いた。そんな中、カテーテル交換のやり方に違和感を覚えることがあった。それは、カテーテル周囲から尿がもれると、より太いサイズでバルーンもより大きくするやり方だった。しかし、管を太くしてもバルーンを大きくしてもカテーテル周囲から尿がもれるのは変わらなかった。そこで、カテーテル周囲から漏れるのは尿カテ留置により膀胱が易刺激的になって‘無抑制収縮’が起きているのでは？と思った。後から読んだ専門書によると、私の直感も正しく、カテーテルを太くすると尿道粘膜を損傷する危険があり、バルーンを大きくすることは尿排出に関係しない間隙を広げるだけで尿路感染症の原因ともなるとの説明がされていた。知識の貧弱さは害あって益のない行為をもたらすものだと感じた。

このような臨床経験を経て看護教員の道に進んだ1980年代後半は、尿失禁の診断・治療・ケアが開花した時代で老年看護を専門としたところから排尿ケアについて知識を広げていった。学位論文では「排尿の習慣化訓練」といったテーマで研究した。「排尿の習慣化訓練」とは、認知機能や運動障害のためにトイレにアクセスできないでトイレでないところに失禁してしまう機能的尿失禁に対して、個人の排尿パターンを把握して、排尿が集積する時間帯にトイレ誘導する方法であり、ケアのエビデンスはBレベルとされている。この方法は個人の排尿パターンはある

程度一定していることが前提であるが、この前提は指導教授からハナから疑問視された。それでも、先行研究に従って連続3日間の排尿モニタリングを行い排尿パターンの有無を調べることを行った。結果、排尿パターンはあるのか否か明確な結論は得られなかった。排尿誘導、平たく言うとおむつ外しに「排尿パターンを調べることは無益だ」と唱える専門家もいる。そもそも「排尿パターン」についての定義が明確でないので、排尿パターンがあるともないとも言えないのだが……。明確な結論を得られなかった研究結果であったが、研究成果は、むしろトイレ欲求を訴えられずに何時排尿したか分からない要介護高齢者の排尿状態のモニタリング方法を考案したことにあると考える。考案した排尿モニタリングは、尿でオムツが濡れるとセンサーが感知して知らせるオムツセンサーを用いて、正確な排尿時刻を把握し、その都度、1回排尿量を計測する。併せて、超音波膀胱容量測定装置（ブラダースキャン）を用いて残尿量を測定する方法である。一言に排尿障害といっても漏れやすいのと出にくいのでは、治療アプローチが全く異なるため、残尿測定により尿排出障害の有無を調べることは必須である。また、排尿時刻が調べられれば排尿頻度（排尿回数）が分かり、頻尿・夜間頻尿の症状を呈する過活動膀胱の診断に有用なデータが得られる。要介護高齢者の尿失禁に対する排尿誘導に際して排尿パターンを見出すことを目的として取り組んだのだが、排尿パターンの前に頻尿や1回排尿量、残尿といったデータから排尿機能障害を見極めることが先決であることが分かった。その上で、排尿機能障害のない（あるいは軽度の障害の）機能的尿失禁患者を選定することが排尿誘導の成功の鍵であるとの示唆、結論を得ている。

このような結論を臨床実践において実証するにはもう一山、研究の取り組みが必要である。年齢的なこともあって躊躇したが、排尿誘導に関連するテーマでもって科研の応募申請を行ったところである。

(こいずみ みさこ)

Message from Students

『あしたまたね！小児外科病棟から』 ～私のおすすめ本～

3年 川村 千里

私は学年が上がるにつれ図書館の利用も増えました。1・2年ではレポートや自習を行うための利用が主でしたが、3年になった今実習も始まりこれまで以上に図書館を利用しています。病態や疾患における治療や看護についてなど幅広い分野における図書がそろっています。少しでも自分の頭の中でイメージできるよう何冊もの本を読み実習で生かしています。また、図書館は静かなので何事にも集中して取り組むことができるのでお勧めです。



ここで私が心に残っている一冊の本を紹介したいと思います。「あしたまたね！小児外科病棟から」という本です。これは何気なく本棚を見ていて、ふと目にとまった一冊です。全部で9話の話が掲載されており、私は「母の祈り」という話を紹介します。主人公のAちゃんはわずか1960gで生まれ、鎖肛という病気を患っていました。発見が遅れS状結腸が破裂し、永久的人工肛門となり手術を

行いました。その後も様々な疾病を併発し、手術や入院を繰り返しましたが、穏やかに月日は流れました。しかし9歳になった時、医師から人工肛門を外し、新たな肛門を作らないかという再手術を申し出されたのです。括約筋を約10年使用していなかったため、リスクもあり両親も初めためらいました。何度も葛藤したのですが、娘のためになるのならと手術を決断したのです。医師から提案された1年後のことです。手術は成功し、苦難を乗り越えその後障害なく暮らしています。



この本を読んで感じたことは、病気を患った本人はもちろんですがその家族、医療従事者誰もが様々な思いを抱き葛藤し、向き合っているということです。この他にも話がありますがどれも考えさせられる話ばかりでありました。掲載されている話は臨床でも共通するものばかりだと感じました。実習をさせていただいている今、対象者の思いというのにもくみ取り関わっていきたくと改めて感じた一冊です。ぜひ皆さんも読んでみてください。きっと何か得られるものがあると思います。

(かわむら ちさと)

『あしたまたね!』請求記号：490.4-A92（棚5右側）

図書館を使うこと

3年 樋口 清蘭



小学生の時は飛び出す絵本やわかったさんシリーズが好きでよく図書館に行って読んでいました。中学生の時は図書館に行った記憶はあまりなく、高校生になってからは受験勉強をする時に図書館に行くようになりました。そして大学生の今、テスト勉強を集中してやりたい時や実習

で病態や看護過程を調べる時など、様々な理由で図書館に行くようになりました。大学の図書館は広いですが、パソコンで検索するとスムーズに本を見つけることができるのでとても便利です。3年になって実習が始まると、その領域ごとに本を借りるようになるのでどこにどんな本が置いてあるのかだんだん分かるようになってきます。

老年看護学実習で受け持ちの患者さんとお話をしている時に、私が魚沼出身と話したところ魚沼のことが書かれている『北越雪譜』という本を勧められました。その本がどんなものなのか分からなかったので大学に帰ってから図

書館で借りて読んでみました。豪雪の中で昔の人がどのように過ごしているのかが記録されていて、とても勉強になりました。また、借りた本を拡大コピーして患者さんと一緒に読むと、患者さんは久しぶりに読むのでとても嬉しそうでした。その本で自分自身も学ぶことがあり、患者さん



写真左「校註北越雪譜」野島出版 1970

請求記号：382-Su96

写真右「現代語訳北越雪譜」野島出版1996

請求記号：914.5-Su96

(いずれも地域資料コーナー(1階))

にもよい刺激になって借りて良かったと思いました。ちなみに、その本が置いてあるところには新潟に関する本や方言の本などがたくさん置いてあります。方言を使われる患者さんもうらっしゃるので、お話している時によく分からない言葉がでてきたりして困ったときには方言の本を借りてみようと思いました。こうした本が置いてあるというの

は、地域に密着したこの大学ならではのだと思います。これから4年になって、研究などが始まるとさらに図書館を使うことも多くなると思うので、使用上のマナーを守りながら活用していきたいと思っています。

(ひぐち さやか)

書評

「おい でてこーい」『ボッコちゃん』(新潮文庫)所収

星新一[著]・新潮社・1993

精神看護学准教授 田口 玲子



➤ の作家は生前、若
― 者たちを中心に広
く人気のあった方な
ので、すでに彼に「出会
った」人達にとっては「何
〜んだ」かも知れません。誰
もが知っている作家の、
ポピュラーな作品を推薦
図書にするのはちょっと
気が引けるのですが、3
月の東日本大震災に続
いて原発の事故が起こ
った時に、私が真っ先に思
い出したのが上記の作品
で、それはもちろん私だ

「教訓」を得てほしくて、この作者
の短編SF小説をお薦めしている
わけではありません。

そもそもみなさんは、どんな時
に大学図書館に足が向きます
か？勉強疲れを癒す憩いの場と
して利用します、という人はあまり
いないのではないのでしょうか。提
出期限の迫った宿題のレポート
を書くために、関連の書架の周
辺をウロウロし、何とか参考になり
そうな本を探し当てたら、そそく
さと貸し出しの手続きを済ませて
退散、図書館に長居することは決
してない……というのが、平均
的な図書館利用法であり大学図
書館のイメージなのではないで
しょうか。



けでなかったのですが、まだ彼を知らないという人にぜひ
一編でも二編でも(何せ、彼は千編以上の作品を残して
います)作品を読んでみてほしいと思い、敢えて今回ご
紹介させていただきます。

…と言っても、SF作家として知られる彼の作品の多くは
「ショートショート」と呼ばれ、極端に短いものなので、あ
らすじで面白さを説明することなど不可能です。つまり作品
自体があらすじなのです。読むしかありません。ちなみに
上記の作品も、文庫本でわずか6ページ(!)です。ある
村に突然現れた底なし穴に、最初は恐る恐る、そしてだ
んだん大胆に後のことなど考えずに人々はもてあました
物を捨てて行き、やがてその結果が…というストーリーな
のですが、驚くのは、原子炉からの廃棄物を捨てるのに
最適だということで、官庁が許可を与え、原子力発電会
社は争って契約し、村人たちはちょっと心配だったのに
「数千年は絶対に地上に害は出ない」からと説得され、
利益の配分をもらうことで納得してしまった…というくだ
りです。この作品が書かれたのは1958年で、星氏の父親
は偶然、福島県いわき市出身とのことですが、それにし
ても福島第一原発の誘致が1960年と言いますから、それ
よりもさらに前です。いったいどうやって予見できたの
でしょう。上記の作品から読み取れるものは、因果応報とい
うか、無責任なことをすると結局それは自分に返って
くる、ということ、欲望はエスカレートするものだ、とい
うことや、責任転嫁のメカニズムなどでしょうか。…が、そんな

次回は文庫本のコーナーにも、ぜひ寄り道してくだ
さい。大学図書館には8冊の星作品(短編集)があります。
10分の休憩時間にも、読み切りで楽しめます。看護という
現象を真正面からとらえているわけではもちろんありませ
んが、人間の持つ普遍的な傾向を、ちょっと距離をおい
た視点からユーモラスに、また皮肉をまじえて描いてい
るので、その意味では人間理解にも大いに役立つでしょ
う。何より、どの作品にもあつと驚くような意外なオチの
楽しさがあります。看護の勉強は濃厚なことが多いので、
時には「お腹がいっぱい」になってしまうこともあるでしょ
う。そんな時に読む星作品は、また「別腹」、濃厚な食事
の後のデザートのような味わいと言えるでしょう。ちな
みに私の星作品「マイベスト」は「盗賊会社」と「処刑」
(ごめんなさい。どちらも、本学の図書館所蔵の文庫本の中
にはありませんでした)でしょうか。全く趣向の違う作品
ですが、人間への鋭い観察眼を持った彼でなければ書
けない、実に印象的な作品で、深く考えさせられます。
そして何より、何回も言ってしまいますが、とにかく美味
しい! のです。ぜひ一度「試食」してみてください。

(たぐち れいこ)

『ボッコちゃん』

請求記号: 913.6-H92(文庫・新書コーナー)

短編集以外の星作品では、竹取物語の訳本1冊、随筆
2冊(いずれも文庫)も所蔵しています

リポジトリ正式公開1周年記念インタビュー



平成23年12月1日、新潟県立看護大学リポジトリNICONURS（にこナース）が1周年を迎えました。登録件数は11月末現在で631件です。日頃からご支援、ご協力いただいている皆様には感謝申し上げます。

正式公開1周年記念として、機関リポジトリ設置当時の図書館長で、設立にご尽力された関谷伸一教授にインタビューを行いました。（聞き手：図書館職員）

—まずは1周年についてのご感想をお聞かせください。



「ようやくここまで来た」という感じです。今はまだ、大学発行物が少ないですが、近いうちに看護大学紀要が出来るし、中身も充実するでしょう。

新潟県立看護短期大学では冊子体で紀要を出していましたが、あまり知られていない状況でした。小さな大学だから発信力が貧弱なので、今までは情報を享受するだけだった。しかし今度はリポジトリを使って、情報を発信する側になったということで良いことだと思う（編者注：短期大学紀要は一部リポジトリに登録されています）。

身近な研究発表の場として、基盤作りが大事でそれがリポジトリかな。

—インターネットに無料で論文が公開されることについてはどう思われますか？

簡単にすぐに発表できちゃうから、とことん中身が吟味されずに出してしまうのではないかとということと、同時に、吟味されるチャンスも少なくなる気がして心配。一方で矛盾するようだが、そうは言っても、「とにかく文字にする」こともすごく大事。ちゃんとやったつもりでもpublish後に反省点がいっぱい出てくる。しかしそれも出してみないと分からない。出すことで返ってくるものがあり、次にやらなければならないことが見えてくる。たくさんpublishされることで裾野が広がっていいものが出てくる。

どこにあるのかも分からないような非常に古い雑誌を図書館に文献依頼すると、インターネット上で電子化されて公開されているということによく遭遇する。大学・博物館などリポジトリで公開されているのは非常にありがたい。最近では学会誌も商業誌も大きなものは冊子体と電子版と両方出ているよね。電子版を見ることができるものをさらにリポジトリで電子化していることもある。便利だけど二重にやってる感じがする。そうでなくてなかなか実物を見ることができないようなものが電子化で見られるとありがたい。

—先生の学術雑誌論文がリポジトリに2件登録されています。内容を簡単にご紹介ください。

1件目論題名：解剖実習後の人体標本を用いた末梢神経のSihler染色

<http://hdl.handle.net/10631/842>

2件目論題名：カマイルカ腕神経叢の肉眼解剖学的特徴

<http://hdl.handle.net/10631/931>

前者は解剖学雑誌に出したもので、染色法、神経の染め方について書いている。後者はクジラの腕（胸びれ）の神経について。（編者注：イルカとクジラは生物分類学上は同じ生物のため、以下イルカとクジラが同義語で語られています）。前者は広く“標本の作り方”についての内容なので解剖学関係者だけでなく神経系をやっている方にも見てもらえるように、後者はクジラ関係者には見てもらえるが解剖学者にはなかなか見てもらえないので、それぞれリポジトリに載せれば単に幅広く見てもらえるかなと思った。

—先生の研究テーマとそのテーマを選ばれたきっかけを教えてください。

テーマは末梢神経の肉眼解剖。ヒト特異なものとか、四足動物に特異なものとか、それがヒレに代わったものとか、どのように変わっていったかに興味がある。その中でも私はずっと足の神経をやっている。ヒトがヒトになった所以が「立ちあがったから」と一般的に言われているから。直立二足になったことが人間の凄く大きな特徴で、それを考えると足がどのように変わってきたかが興味深い。クジラは足が無いから腕（胸びれ）を調べるようになった（笑）。

不思議なもので「ヒトの進化」に子どものころから興味があって、何かみるたびにそう思っていた。なぜ解剖が面白いのかというとよく分からないけど面白い。生理学や生化学の実験と違った「目で見える」面白さがある。生理学は推理

小説のように謎を解く面白さがあり、**解剖学は考古学のような発掘する面白さがある**。見えない中に隠れているものを見つけて行く喜び。そういう意味で「発見」であり「発掘」である。人であったり、動物であったり、動物でもイルカであるか猿であるか種類によって違いがあってきりが無い。違いを見つけないが、その底辺に流れている共通するもの＝普遍的なものがわかると「なるほど」と思う。かつて我々は魚で、陸上にあがって進化してヒレが手になった。それとは逆に、犬のような四足動物だったクジラの先祖は、水に適応して手がヒレになり、足が無くなった。進化したものが元に戻ってしまった。そういうときの形態学的な変化が知りたい。

ー講義を通して学生に伝えたいことを教えてください。



インタビューは研究室で行いました。上写真のように研究成果ポスターや、イルカの解剖写真などを見させていただきました

人間が自然の中でどのような位置にいるのか。生物としての位置づけを知ってもらいたい。ヒトは哺乳動物の一つであり、動物の仲間である。社会的なことや心理学的な人間特有のいろんな問題もあるが、それはそれで勉強してもらって、それとは別に**生物としてのヒト、哺乳動物としてのヒト、霊長類・猿の仲間としてのヒトの位置づけ**を理解してほしい。

ー先生は現在、紀要委員長をされています。今後はリポジトリに紀要が登録される予定です。リポジトリに期待することを聞かせてください。

学術雑誌に投稿した論文は、今や学術雑誌そのものが電子化されていく方向だからあんまりそこは熱心にならなくてもいいかなと思う。それよりも紀要とか、大学が独自で発行・発信する報告、年報などがきちんと電子化されて皆が簡単に見ることができるようになるのが一番いい。短大紀要のようなマイナー雑誌の論文がリポジトリに載ることに意義がある。そういうのがどのくらい皆に見てもらえるか期待している。結果的には短大紀要の論文は多くの看護関係者から非常によく見られている※。どでかいデータベースを作らなくても、ちまちまと自分たちがやったことを公開していく方法でいいんだと思う。

あとは他の大学にない、他の人たちがやってない特殊なものがあればぜひ頑張って公開してほしい。

ーにこナースには大学広報紙から新聞記事などなんでも入っています。

私も最初リポジトリを考えた時はそこまで全部登録することは考えていなかったからびっくりした。今は慣れたけど(笑)。出来るだけ公開することがいいと思う。大学として発行していなくても、研究室単位でジャーナルを出す形でも悪くないと思う。

世界中に広がるから楽しみだね。そういう意味でのインパクトは大きい。

1周年記念のインタビューを急遽思いつき、関谷教授にはお忙しいところ快くお答えいただきました。ありがとうございました。聞き手はイルカがクジラと同じ生物であること、人類とは逆に進化していったという話を知らなかったのでインタビューを忘れて聞き入ってしまいました。

リポジトリを「マイナーな雑誌を世界中に注目させるシステム」として捉えるという先生のお考えも興味深かったです。

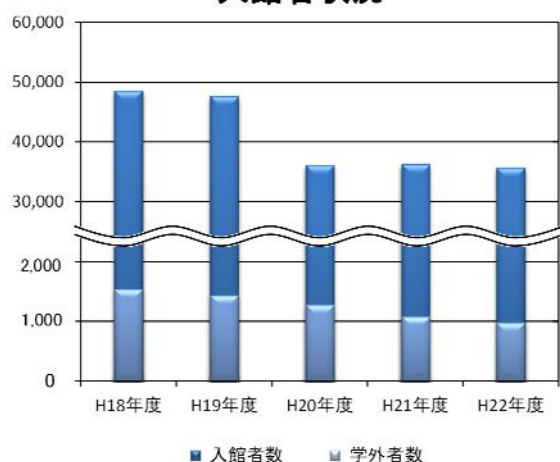
なお、本学リポジトリ（にこナース）の設置には、システム面で橋本明浩教授に多大なご協力を賜りました。改めてこの場を借りて御礼申し上げます。

今後とも、にこナースへのご支援・ご指導賜りますようよろしくお願いします。

※12月1日からは高頻度利用論文を順位で表示しています（p8参照）。

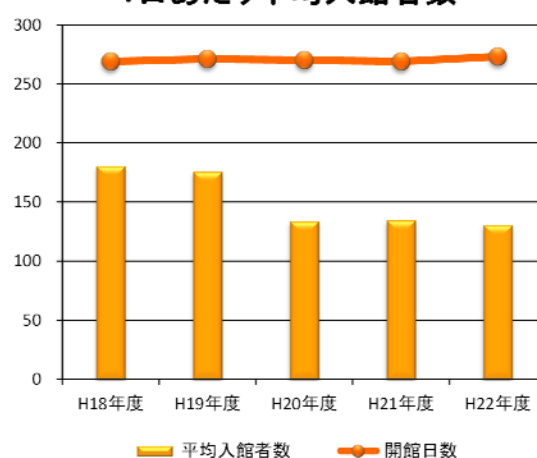
利用統計

入館者状況



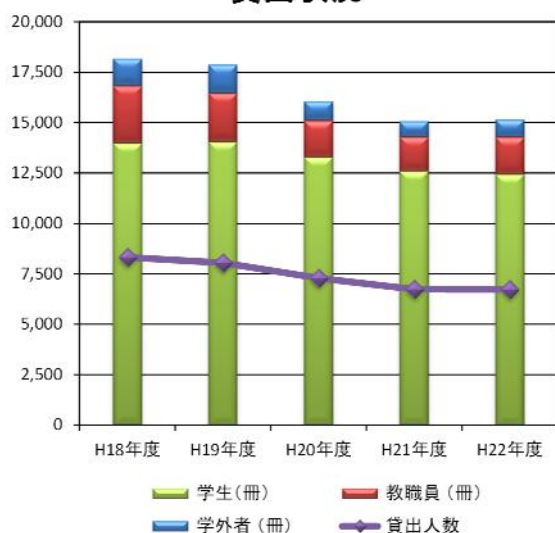
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
入館者数	48,562	47,662	36,140	36,271	35,684
学外者数	1,539	1,435	1,274	1,080	974

1日あたり平均入館者数



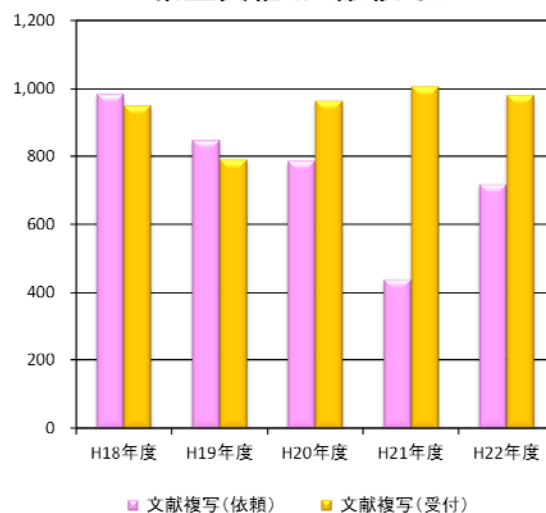
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
開館日数	269	271	270	269	273
平均入館者数	181	176	134	135	131

貸出状況



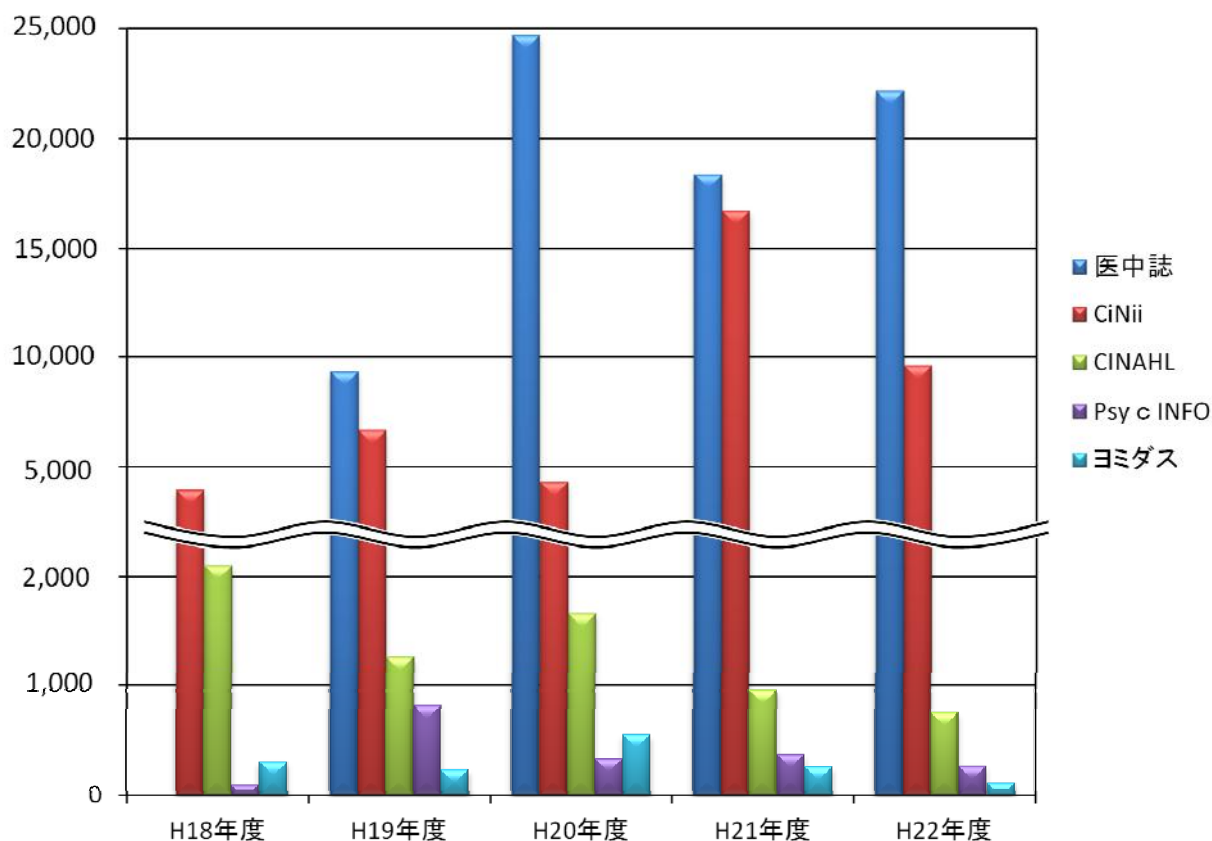
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
学 生 (冊)	13,980	14,038	13,283	12,586	12,423
教職員 (冊)	2,838	2,417	1,807	1,692	1,852
学外者 (冊)	1,348	1,422	972	789	866
貸 出 人 数	8,315	8,046	7,281	6,734	6,719

相互貸借(文献複写)



	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
文献複写 (依頼)	985	850	787	439	718
文献複写 (受付)	951	790	965	1,007	982

オンラインデータベース検索回数



	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
医中誌	-	9,348※	24,718	18,377	22,173
CiNii	3,967	6,690	4,310	16,743	9,625
CINAHL	2,106	1,274	1,671	962	760
PsycINFO	99	823	338	379	272
ヨミダス	308	239	561	266	115

※ 医中誌の「検索回数」はH19年8月～H20年3月までの回数

阿賀町公民館図書室三川分館へ図書を寄贈しました

平成23年7月の新潟・福島豪雨災害により、大きな被害を受けた阿賀町公民館図書室の三川分館へ、夏季休暇明けの9月1日から1か月間、寄贈図書を募集しました。

皆様からの善意により、絵本、児童書、小説、実用書など、多数寄贈して頂きました。

内訳は下記の通りです。

教 員 7名	100冊	} 合計
職 員 5名	41冊	
学 生 1名	3冊	
その他	3冊	
		13名 147冊

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

10月4日に発送し、新潟県立図書館を通じて阿賀町公民館図書室三川分館へ送って頂きました。

後日、阿賀町公民館長より御礼状を頂戴しました。

<以下抜粋>

『このたびの当地を襲った集中豪雨の被害に際しまして、蔵書を寄贈いただき、誠にありがとうございました。

ご寄贈いただきました蔵書につきましては、一日も早く阿賀町公民館三川分館図書室を再開し、広く住民の皆様にご利用いただくように努めたいと考えております。

最後になりましたが、ご芳志に感謝し、御礼のご挨拶とさせていただきます。』

ご丁寧ありがとうございました。

一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

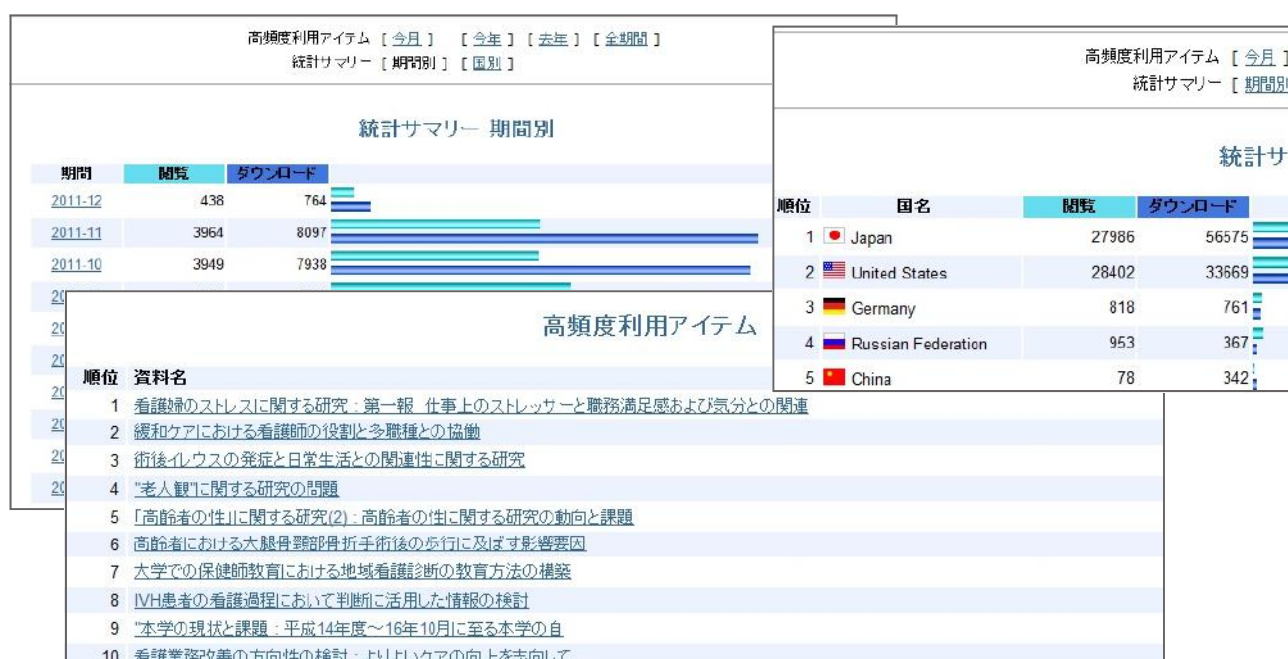
寄贈図書案内 平成23年6月～10月

下記の著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。(敬称略・受入日順)

	寄贈者	書名	出版年	請求記号
学 外	筒井真優美	小児看護におけるケアリングと癒しの環境創造-アクションリサーチを用いて- 平成19年度～平成22年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書	2011	N257-Ts93-07-10
	蝦名美智子	医療処置・手術を受ける子どもへのプレパレーション・モデルの開発と教材開発 平成17・18・19・20年度 文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究(B)(2)	2009	N257-E15-05-08
	石川俊明	自然哲学の礎 -勉強は何のため?-	2009	420-I76

お知らせ

本学リポジトリで期間別、国別、高頻度利用アイテムの統計を公開しました。



“高頻度利用アイテム”では登録された論文ごとの順位を知ることができます。全期間(平成22年11月(試験公開)以降)を通して、1位と3位が新潟県立看護短期大学紀要論文、2位が修士論文(全文)でした。

図書館ホームページのトップページから、簡易蔵書検索ができるようになりました

新潟県立看護大学図書館
Niigata College of Nursing Library

最終更新日：2011

検索 クリア

検索対象は、フリーワード検索と同じです。入力した語句をもとに、検索の対象となっている書名、著者名、出版社、注記、雑誌特集記事名などの複数の項目に対して検索できます。

NCNL 図書館だより 第30号 (平成23年12月22日発行)

編集：新潟県立看護大学 図書委員会

〒943-0147 上越市新南町240番地

E-mail: tosyo@niigata-cn.ac.jp

発行：新潟県立看護大学図書館

TEL: 025-526-1169

URL: http://lib.niigata-cn.ac.jp/